

令和 8 年度 全国学力状況調査についての報告

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果から、本校の全体的な強みと課題、および全国や神奈川県公立平均と比較して特徴的な項目を整理しました。

【1】 本校の強み

生徒が日々の家庭学習を粘り強く継続し、先端的な ICT 環境を自らの表現ツールとして効果的に使いこなす、極めて高いポテンシャルを備えていることが確認されています。

1. 家庭学習の継続力と確かな学力水準

平日に 2 時間以上勉強する生徒が **47.7%**（全国公立平均 30.1%）、休日には 3 時間以上勉強する生徒が **24.9%**（全国平均 13.1%）に上り、学習を継続する規律が家庭において定着しています。この継続的な努力は各教科の学力（IRT スコア）に直結しており、数学で **6.1**（神奈川県公立平均 6.0）、英語で **6.2**（神奈川県公立平均 5.7）と、それぞれ県平均を上回る実績を残しています。

2. 日常的な ICT 活用と、磨かれた「表現・発信力」

1 日に複数の授業で PC やタブレットを活用している割合が **78.4%**（県平均 33.3%、全国平均 29.3%）と、先進的なデジタル学習環境が日常化しています。この環境のもと、生徒の **59.5%** が「発表用スライドの作成」に高い自信を持っています。この卓越した表現力は教科の枠を超えて発揮されており、英語 4 技能調査（平均 IRT スコア：自校 **548** / 全国平均 **499**）において、上位層（バンド 4・5）の割合が **45.6%** に達する原動力となっています。特に、相手を意識して「まとまりのある好きな理由を英語で話す問題（問 17）」では、正答率 **68.5%**（全国平均 48.0%）を記録するなど、他者に向けて即興で論理的に考えを伝える発信力は、学校全体の大きな強みです。

3. 他者や社会を思いやる「豊かな利他心」

本校では、生徒の社会貢献や他者への参画意識が非常に高いレベルにあります。「人の役に立つ人間になりたい」と願う生徒は **76.5%**（全国平均 69.8%）に達し、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した生徒も **30.7%**（県平均 19.7%）と、県平均を 10 ポイント以上上回っています。

【2】 今後の課題

1. 学習習慣と対照的な「起床習慣の乱れ」

家庭学習に高い規律がある一方で、起床習慣の乱れが懸念材料となっています。「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた生徒は **43.1%** に留まり、県（50.4%）や全国（55.5%）と比

較して明確に低い割合を示しています。

2. 高い理解度と「主観的な自信（得意意識）」の乖離

本校の生徒は授業内容を深く理解していることが数字に出ています（数学の授業がよく分かる：自校 **44.4%** / 県平均 36.6%）。さらに、分からない問題があっても「あきらめずに多様な解法を試みる粘り強さ」を **45.1%** の生徒が持っています。 それにもかかわらず、「数学の勉強が得意だ」と自信を持てている生徒はわずか **21.6%**（全国平均 21.7%）であり、実態の高さに主観的な自己評価（得意意識）が追いついていません。

3. 学級内の「心理的安全性」と「友情の満足度」のズレ

「人と違う意見を言っても否定されない」という他者受容の学級風土が **41.8%**（県平均 32.4%）と高く保たれています。 その一方で、「友達関係に満足している」生徒の割合は **52.9%** と、県平均（54.7%）や全国平均（56.5%）に比べて控えめであり、生徒が周囲と「より深い情緒的な繋がり」を実感できるようサポートする必要があります。

【3】 今後の指導改善に向けた具体的なアクション

生徒が「先生は分からないところを最後まで教えてくれる」と信頼（**52.3%**）を寄せる良好な教職員関係を強みに、南戸塚中学校では今後、「手厚く教え導く指導」から「生徒が自ら管理し、他者と深く繋がる力を引き出す伴走型の支援」へのアップデートを推進していきます。

授業中の「試行錯誤（Q65）」や「他者へ自分の考えを説明するプロセス（Q66）」を可視化し、価値づけるフィードバックを全教科で行います。 否定されない安心な学級風土（Q20）を基盤に、生徒同士が互いの「考え方の多様さ」をリスペクトし合う授業を展開することで、すべての生徒が「自分は十分に伝わっている、やれている」という確かな教科への自信（自己効力感）を獲得できるように支援します。

【4】 まとめとして

南戸塚中学校では、今回の調査から得られた客観的な指標を基に、単に知識を与える「教授型の教育」から、生徒自身の持つ豊富な ICT 発信力や学習規律を「自分でコントロールし、自信に変えていく自立支援型の教育」へとシフトしていきます。学校が一丸となって、生徒一人ひとりが「自立した学習者」として、確かな自信を持って主体的に歩み出せるよう、伴走者としての教育活動を推進してまいります。